

暮らしに思いつき、暮らしを支えてきた森が悲鳴を上げている。古来、われわれは森を真正面に見据え、畏敬の念も抱いてきた。だからこそ、その豊かな恵みを受け取ることができたはずだ。しかし、われわれは「効率化」や「合理性」を合言葉に、森とともに生きることを頭の片隅に追いやってしまった。植生は大きく変わり、放置された森はその機能を失い始めた。今、そのつげが刃のように突きつけられている。

荒廃する森ともう一度向き合うために、山陰地方の山々に踏み入った。「森との共存を求めて」森に思いをはせる識者たちのコラムとともに、シリーズで今をそして明日を伝える。

変ぼうとする森

奥出雲町ルポ



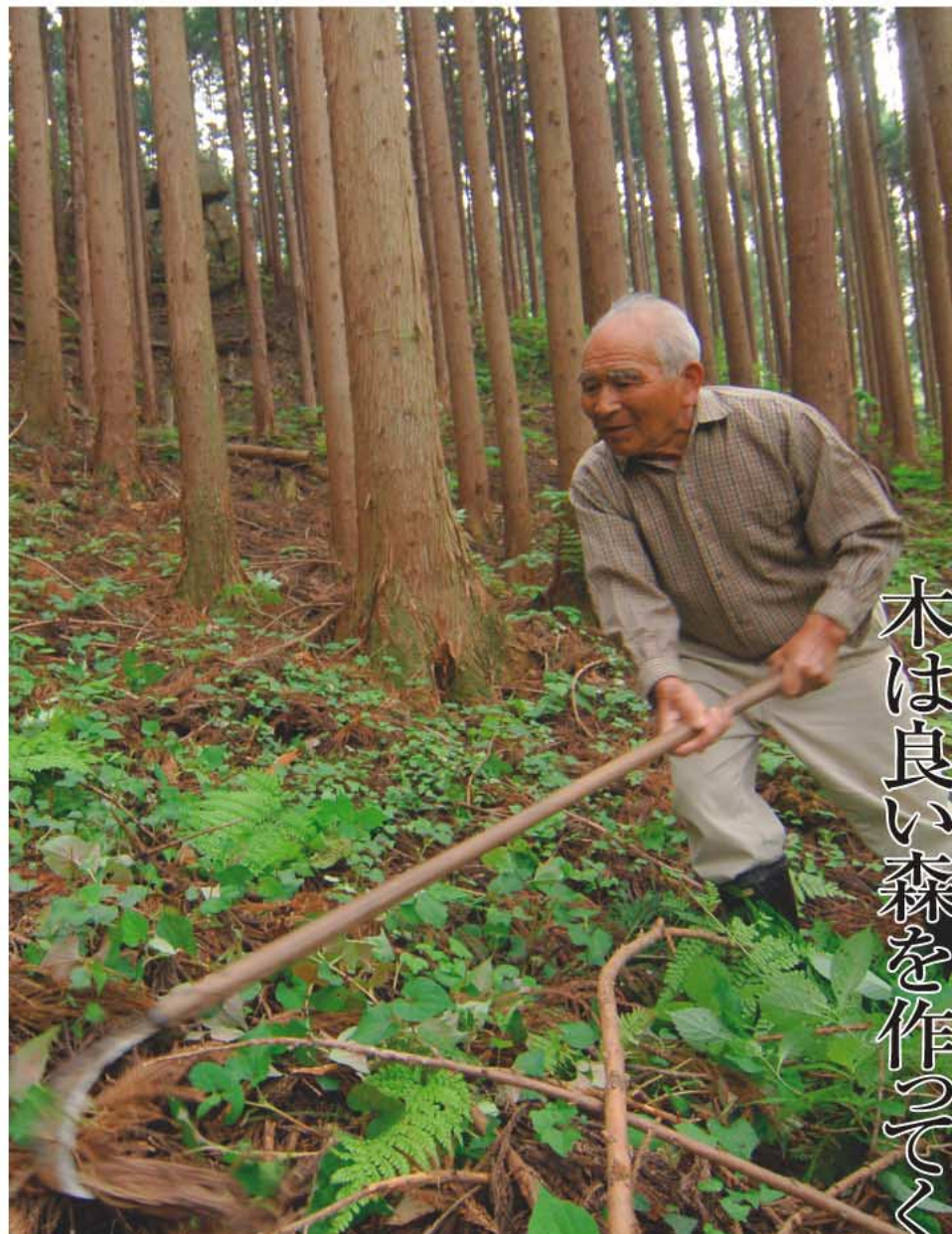
松江市から南へ四十キロ。広島県境に近い中国山地の懐に抱かれた島根県出雲町下阿井地区の森林では、高さ二十メートルのスギとヒノキのすき間を縫って木漏れ日が降り注いでいた。

朽ちた原木シイタケ用のほ

「管理さえしてやれば、木は良い森を作ってくれる」。十二ヘクタールの森林を所有する同所の響忠好さん(77)は相好を崩した。半世紀以上も林

山の環境は、この五十年で変ぼうした。一九五〇年代までの主伐はナラなど広葉樹で、木炭を生産。六〇年代に入ると石油がエネルギーの主役を取って代わると、スギやヒノキといった針葉樹へ樹種転換が図られた。七〇年代に外国産材の輸入が

業に携わり、今でも間伐や枝打ち作業に汗を流す山のプロだ。保水力は低下し、がけ崩れや下流域の洪水につながる。経済性だけを追い求めた大型の樹種転換の森林政策が、荒れた山の現状をつくったと響さんは指摘。「自然は決して人間のしたことを許してくれなかった」とつぶやいた。悔やむ響さんだが、自らの山の管理には前向き。植えている十アール当たり二百本を劣等木の間伐で将来は五十本程度にする。「目標は二百年の森。一抱えもある大木が並んだ森を想像するだけで楽しみ」と笑う。



木は良い森を作ってくれる

大切な山への思いを込め、下草刈りに精を出す響忠好さんと話す響さん夫妻

「この家は先代が育てたヒノキで建て替えた」と話す響さん夫妻

進み、国内産材の価格が低迷すると、林業に携わる人は減少の一途をたどった。間伐や枝打ちをしない針葉樹林は下草が生えな

森林作業を終えて、山を下りる時、西日で伸びた自らの影を、木に重ねるのが響さんの楽しみの一つだ。「木も自分の影のように成長してほしい。二百年の森へ向ける愛着は深い。木の命は数百年。だからこそ、子孫のために林業に取り組む。ゆくゆくは長男の繁則さん(51)に山を託す。「山を大切にすることを自分の心の豊かさにつながる」。思いは親子に受け継がれる。



三浦朱門 (作家)

最近、ジャレド・ダイヤモンドの『文明崩壊』という本が評判になっている。これによると文明はそれを作った人間と自然が、自然を食った結果、具体的には森林を切りつくし、その結果として大気、大地、そして河川の荒廃を招き、大帝国、大文明が滅亡した、となっている。その中で例外的に成功した文明として、江戸時代の日本を挙げている。

環境破壊の音が聞かれる。日本での文明と自然との相互依存システムを「里山」にみることで、自然がその厳しい生存競争によって特定の生物のみが繁栄することがない程度に手を加えて、農業や林業を営んだ。オトギ話に出てくる「おじいさんは山に柴刈

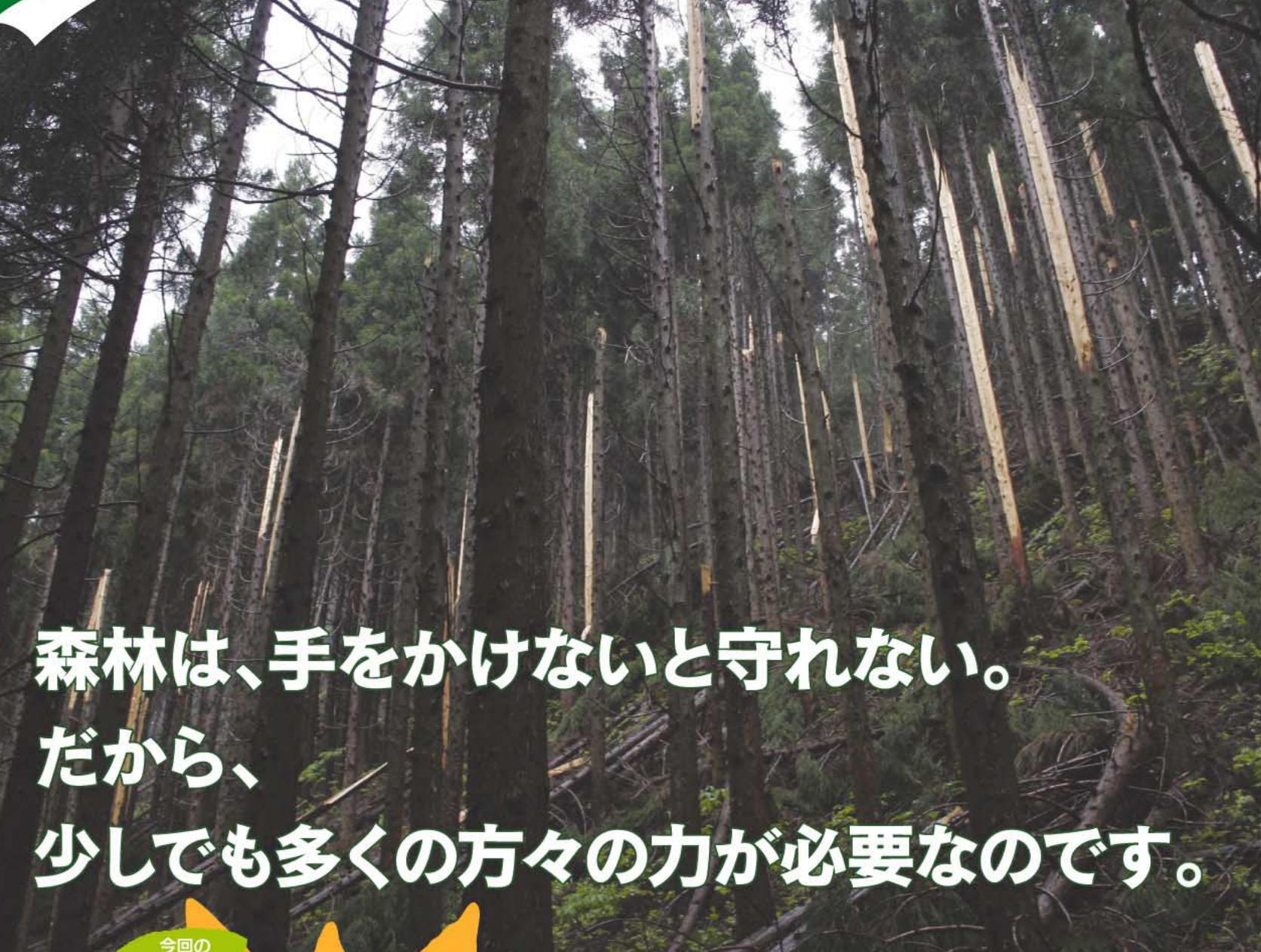
てアフリカの森林の中に暮らしているとすると、人間の祖先はこういふ近親動物と別れて、自然環境の変化や好奇心から、草原に足を踏み入れた霊長類であったのかもしれない。草原に進出した霊長類は他にもいたかもしれないが、現代人だけが成功した。

われらの祖先だけが発達した頭脳によって、地球上のさまざまな地域で生存する技術つまり文化、文明を発達させてきた。それでもなお、私たちに森林に在ると、遠い祖先の血がさわる。国木田独歩も言ったではないか、「森林に自由存す」。森林浴という言葉があるように、深い森林を歩く時、そして巨木に背を預け、柔らかい草を尻に敷く時、私たちは言い知れぬ安らぎを感じる。森林こそ、人間の原点ではないだろうか。

(次回コラム(6月18日掲載)も、三浦朱門さんが担当します)

プロフィール
三浦朱門(みづの しゅもん) 1926年東京都生まれ、48年東京大学文学部卒業、85年文化庁長官、2004年から日本芸術院院長。1967年『箱根』で新潮社文学賞、82年『武蔵野イデア』で芸術選奨受賞、他に『夏山山園』(『権威』などの著作がある。99年文化功労者に選ばれる。99年出雲国加茂2000年プロジェクト会長就任。

森林保全活動レポート その③



森林は、手をかけないと守れない。だから、少しでも多くの方々の力が必要なのです。

豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守る会!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。



森の現状を見てまわる会のメンバー。木がなぎ倒され、地面がむきだしになっています。

一見、普通のスギの森。でもよく見ると木が縦に引き裂かれています。2年前の台風や、その後の大雪によって森がこのような姿にかわってしまったのです。

しかも、このような状態が続くと、森の保水力が低下し、災害が起きやすくなるといわれています。森が果たすべき役割は、重大。けれど森の維持には、手間暇がかかるのも事実です。手入れの遅れた森林を再生するには多くの人たちの援助が必要です。こうした現実に立ち向かうために結成されたのが、「日野川の源流と流域を守る会」です。森を守るために、間伐や植樹活動を行い、また「森と川の乗校(かっこう)」などの現地体験を通して多くの人々に自然の大切さを訴えています。



今日の森林保全活動レポートその③に登場する
日野川の源流と流域を守る会
日野川とその流域の自然環境を守り育みながら、次の世代へ引き継ぐことを目的としています。会員は約740名で、その多くは米子市や日野町などの日野川流域の住民及び団体・法人です。源流域の人工林での間伐作業・日野川の河川清掃などの森林や川・海を守るボランティア活動、親子を対象にした「森と川の乗校(かっこう)」や講演会の開催などによる啓発活動を行っています。設立5年目を迎えた2006年は日野川源流域の自然などを紹介した「日野川源流ガイドマップ」の作製や総合案内板や道標の設置など、多くの記念事業も計画しています。
ボランティア参加のご希望は・・・「日野川の源流と流域を守る会」事務局
〒689-4503 鳥取県日野郡日野町根南140-1 電話/0859-72-2021

森林を守る会! 山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん (4月21日現在)
※50団体

- 鳥取県
NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
NPO法人 サカズキネット(倉吉市)
広葉樹文化協会(鳥取市)
財団法人 南部町地域振興会(南部町)
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
トリネット(米子市)
日野川の源流と流域を守る会(日野町)
丸山生産森林組合(伯耆町)

- 島根県
出雲市林業振興協議会(出雲市)
NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)
NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
源流の森里山づくり(邑南町)
財団法人 島根県西部山村振興財団(浜田市)
里山を育てる会(松江市)
しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市)
森の仲間(出雲市)
遊木民倶楽部(益田市)

特別協力
山陰中央新報社
新日本海新聞社

この広告に関するお問い合わせは事務局まで

山陰合同銀行 地域振興部内
島根県松江市魚町10 千690-0062
TEL.0852-55-1820